

ハワイ州上院による認定証 万延元年遣米使節子孫の会を認知し称賛する



第 30 回議会のハワイ上院は万延元年遣米使節子孫の会を認知することを光栄とする。

1858 年 7 月 29 日、日米修好通商条約が日本に停泊していたポーハタン号の甲板上で調印された。(注1)ポーハタン号は日本政府の公務員 77 名を乗せ、軍艦咸臨丸に随伴されて、条約が米国議会で批准されるべく横浜からアメリカに向かって出航した。咸臨丸は直接カリフォルニア州サンフランシスコ市に向かったが、ポーハタン号は 77 名の団員と共に修理と燃料、在庫の補給のためにホノルルに寄港した。

カメハメハ 4 世とエマ女王が 1860 年 3 月 13 日(注2)に使節団を王宮に迎えたのが日本の公務員とハワイ王国との最初の接触であった。使節団一行があまりにも手厚い歓迎されたため、日本とハワイ王国との間の修好通商条約が提案されたほどであった。使節団は 14 日間近く滞在してから再びアメリカに向けて出航した。

この思いがけない寄り道から日本とハワイとの間の絆が芽生え、1868 年に初めてハワイへの移住者が誕生する。移民労働者として訪れた彼らは、義理や恩などといった日本の伝統的な価値観を支えに厳しい社会・労働環境を耐え抜き、ハワイ社会の将来世代の繁栄のため尽力した。

2011年、日米外交創立の歴史的な重要性を再確認するため万延元年遣米使節子孫の会が設立された。

第 30 回議会のハワイ上院は遣米使節子孫の会をここに認知し褒め称え将来の幸運をお祈り申し上げます。

ハワイ州ホノルル上院にて 2019 年 4 月 18 日

スポンサー上院議員 B.T.Taniguchi、上院議長 R.D.Kouchi、上院書記 C.Taniguchi

第 30 回議会

証書番号 No. 590

(注1)1860 年 2 月 13 日 (注2)3 月 9 日